

全 青 中 だ よ り

VOL.7 (平成 24 年 12 月号)



「健康寿命をのぼそう Smart Life Project スーパーバイザーの西川りゅうじん氏と上山会長（右）」

会 長 挨拶

皆様におかれましては師走に入り、日々、社業に青年中央会活動に忙しい毎日を過ごされていることと存じます。日頃より、全青中の活動へ、ご理解ご協力いただきありがとうございます。時間の経過は早いもので、9月の全国講習会開催から約3ヶ月を経過いたしました。開催にあたりましては、全国各地より九州博多の地へ多数ご参会いただきました事に心よりお礼申し上げます。又、当日開催いたしました代表者会議、講習会で学ばれた事をそれぞれの活動に活かしていただければ幸いです。今後も更にバージョンアップしてまいりたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

本年度の事業計画にあります、全青中の「綱領」策定も11月に開催いたしました役員会を経て、全青中のあり方を議論した後順調に進んでおります。各ブロックより出向していただいている役員の皆様と策定に向けて議論を重ねているところです。

就任後、全国各地に伺う機会をいただき皆様には心温まる気遣いをいただき感謝しております。先般は、東北・北海道ブロック連絡協議会の講演会、会長会議、そして懇親会に参加させていただき、発言の機会までいただきました。若生会長、佐藤会長、事務局の皆様ありがとうございました。

翌週は兵庫県中小企業青年中央会の30周年にお邪魔しました。積極的な素晴らしい活動に渡邊会長のパワーを感じました！二次会では「西川りゅうじん」講師と今後の交流について積極的なご意見をいただき、素晴らしい出会いをいただいた大会でした。渡邊会長をはじめ事務局の皆様ありがとうございました。

全国の青年中央会の皆様が更に交流を深められ、会心の仲間達となり今後益々の盛会を期待いたします！

「会心の仲間達よ！Feel the new wind」

結びになりますが、皆様にかかれましては会員の皆さんと、そしてご家族と輝かしい新年をお迎えされることを心より祈念し挨拶とさせていただきます。

平成24年度全国講習会（福岡）代表者会議報告書

秋冷の候、貴都道府県青年部におきましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素は全国中小企業青年中央会に対しまして、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

去る9月21日、福岡で開催されました平成24年度全国講習会におきまして、たいへんお忙しい中を各都道府県の代表をはじめ、多くの会員の方々にご参加をいただきましてありがとうございました。

全国講習会の前に開催いたしました代表者会議につきましては報告書を取りまとめたものを各県に送付させていただいております。

開催目的にも述べさせていただきましたが、各都道府県に加盟する組合青年部の減少、単組組合数の減少、事業実施時の参加者の固定化など、各青年中央会が抱える問題は、全国共通ものが多いです。

この報告書を参考にしていただき、少しでも課題が解決する方向に向かっていただき、今後ますます発展していただければ幸いです。

またこのようなスタイルの代表者会議はたいへん好評で予定時間内で終了するのが困難ほどたくさんの方の意見を出して頂き、発表していただきました。

是非とも続けていきたいと思っております。今後ともご協力をお願いします。ありがとうございました。

<上山会長より>作成 H24, 11月



<全国代表者会議発表状況>

平成24年全国講習会を終えて

福岡県中小企業団体中央会青年部連絡協議会会長の早水忠です。ご多忙の中、全国より本講習会にご参加頂きました皆様、並びに本講習会開催に当たりご尽力を頂いた本会青年部協議会の実行委員及び役員の皆様に対しまして、厚くお礼申し上げます。本協議会といたしましては、青年経営者及び後継者の資質の向上のため、今後も継続して経営に役立つセミナー等の事業を行っていく予定ですので、より一層のご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

平成24年度組合青年部全国講習会の実行委員長を務めさせていただいた梯 輝元です。運営につきましては、至らぬ点多々あったかとおもいますが、講習会については、私も所属する福岡県青年司法書士協議会会員、門司港のまちづくりなどでも活躍するバナナマンこと秋武政道氏をお呼びしました。皆さまのお役に立ちましたでしょうか。私もこれで中央会青年部を卒業いたしますが、中央会青年部のますますの発展をお祈りいたしたいと思っております。

<福岡県青年中央会事務局より>

平成24年9月21日（金）、福岡市中央区「ホテルニューオータニ博多」において、平成24年度組合青年部全国講習会が開催されました。

当日は、総勢240名を超える中小企業青年経営者、後継者、組合事務局担当者等の参加をいただき盛大に執り行われました。

講習会の第一部では、福岡県青年司法書士協議会有志により「会社経営者に求められる法律知識」と題し、司会進行役に櫻井菜穂子氏、質問者役に平田輔氏、回答者に大城明恵氏、椛島浩二氏、矢鉾志成氏にそれぞれつとめていただき、①謄本の見方と債権回収 ②労働問題と役員の責任 ③事業承継などについて、ともすれば難解になりがちな法律問題をドラマ仕立てで、わかりやすくご説明いただきました。

第二部は、(資)じじやのひもの社長の秋武政道氏を講師にお迎えし、家業として受け継いだ干物店を一時は倒産寸前の経営危機に陥らせながらも、お客様の声を活かす独自のマーケティング手法により、行列のできる繁盛店にまで発展させたという実体験に基づく講演で、参加者を大いに感動させました。

懇親会では、福岡ソフトバンクホークスハニーズによるアトラクションが行われるなど、宴は大いに盛り上がり、参加者は全国各地の仲間とそれぞれ交流を深めました。

なお、当日、九州北部豪雨災害被災地に対する募金箱を設置しましたが、皆様より4,029円の募金が集まり、全額を社会福祉法人中央共同募金会を通じて、被災地に届けました。この場を借りまして、御礼を申し上げます。

<各県青中の活動・取り組みについて>

青年中央会 東北・北海道ブロック交流会 盛岡で開催

11月2日(金)、「南部湯守の宿 大観(盛岡市繫)」に於いて「東北・北海道ブロック交流会」が開催された。

東北6県・北海道の青年中央会をはじめ、全国中小企業青年中央会の上山会長、寺本副会長及び、全国中小企業青年中央会の直前会長である堀井聖介氏をご来賓に迎え若手経営者・後継者による交流を図った。

交流会では、事例発表に先立ち、主催者の中小企業団体青年中央会東北・北海道ブロック連絡協議会の若生会長および開催県である岩手県青年中央会佐藤会長からの挨拶のあと、全国青年中央会の上山会長から祝辞を頂戴した。

事例発表は、被災地への社会貢献事例と復興のための取り組みについて、岩手県青年中央会会員青年部2名より発表が行われた。

■事例発表1人目

テーマ：「青年部創立20周年記念「明かりを灯そう！被災地通学路へLED防犯灯100灯寄付」事業の取り組みについて」

発表者：岩手県電気工事業工業組合青年部 金澤英治 氏

■事例発表2人目

テーマ：岩手もりおか復興ステーションの活動について

発表者：岩手塾～岩手を学ぶ会～ 北田耕嗣 氏(岩手もりおか復興ステーション 所長)

金澤さんからは、電気工事業者である我々が、被災地に対して何ができるかを話し合い、それを青年部員同士で意識を共有していくことの難しさや、実施に至るまでの想定外の困難や、それらを乗り越えた先にあった充実感などについて発表いただいた。

北田さんは、現在、岩手もりおか復興ステーション(東京都飯田橋)の所長として、復興情報発信や被災地企業と首都圏企業とのビジネスマッチングを図るため積極的に活動しており、ご自身の活動(SAVE IWATEでの活動やボランティアツアーの企画・運営)のほか、被災地域外の人々の意識の変化、復旧から復興へステージがあがっていく中で我々事業者が果たすべき役割についてご自身の考えとともに発表いただいた。

自身と同年代の2名の発表に、聴講者も大きな刺激をうけ、多くの質問がだされる等活発な交流会となった。

交流会後の後に開催されたブロック会長会議において、来年度開催県は福島県と決定された。



懇親会は、会場を 11 階の湖雲に移し、盛岡市商工観光部佐々木次長、佐藤岩手県観光協会理事長、中央会谷村会長、交流会より引き続き全青中の 3 名、高橋顧問(直前会長)にご臨席のもと、開催された。



中央会の谷村会長からは、来賓挨拶を頂戴し「中小企業の持続的かつ安定的な経営の実現のためには、若い細胞である皆さんの柔軟な発想力と行動力に寄せられる期待は大きく、また、連携組織の要となる皆さんの一層の活躍を期待する」と、激励された。

素晴らしい料理に加え、岩手県青年醸友会の佐藤副会長から県内酒蔵の地酒を多数お振る舞いいただいた他、地元「つなぎさんさ」の披露があるなど、岩手・盛岡を五感全てで感じられる会となった。



<<東北・北海道ブロック交流会後の懇親会にて>>

<東北・北海道ブロック事務局より>

兵庫県青年中央会 30周年記念式典開催

平成24年11月9日 ANAクラウンプラザホテルにて兵庫県中小企業青年中央会 創立30周年記念大会が挙行されました。記念講演講師に「西川りゅうじん」先生をお招きし兵庫青年中央会へ United Business Associations (異業種組織の集合体)「Hyogo UBA」と命名頂きました。その記事が新聞に掲載されましたのでご紹介します。



<会 長 活 動 記 録>

8月28日

四国ブロック交流会議出席 愛媛県 (上山会長・寺本副会長・中野副会長)

9月4日

全国講習会実行委員会出席 福岡県 (上山会長)

9月20日

全国講習会事前打ち合わせ・福岡県中央会事務局挨拶 (上山会長・中野副会長)

9月21日

全国講習会出席



10月1日

正副 WEB 会議開催 15:00~16:00 (上山会長・寺本副会長・中野副会長)

10月22日

全国青年友好団体 TOP 会談出席 (上山会長・寺本副会長・中野副会長)



10月25日

全国中小企業団体中央会全国大会出席 (上山会長)



上山会長と宮崎県青年中央会会長中村鉄兵氏

10月26日
経済産業省 第3回未来部会出席 (上山会長)

10月30日
正副WEB会議開催 17:00~18:00 (上山会長・寺本副会長・中野副会長)



11月2日
東北ブロック会員大会出席 (上山会長・寺本副会長)



11月9日
兵庫県青中創立30周年記念式典出席 (上山会長・寺本副会長・中野副会長)



11月22日
経済産業省 第4回未来部会出席 (上山会長)
「Smart Life Project」西川りゅうじん氏との《元気ビジネス対談》 (上山会長)

12月22日友好青年四団体による被災地の経済復興に向けた「のろし会議」開催予定

<<全青中よりのお願い>>

「Smart Life Project」参加と友好青年四団体共同事業としての「JC-AID」の各県での利用促進をお願い致します。

「全青中 25 通常総会 in 愛媛県松山市」開催に向けて〔まちのPR〕

みなさま、こんにちは！

平成 25 年 6 月 28 日（金）に全青中総会を初めて愛媛県松山市で開催いたします。

ぜひたくさんの方々にご参加頂きまして、交流はもとより観光等でもこの愛媛県松山市を存分に楽しんで頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

愛媛県の県庁所在地「松山市」は四国地方で一番人口が多く、松山都市圏の中心となっている市です。松山市は古くから松山城を中心にして発展してきた城下町です。

松山市の見どころと言えば、築 400 年超の松山城、国内最古の温泉と呼ばれミシュランガイド三つ星評価の道後温泉、司馬遼太郎原作「坂の上の雲」がテーマの坂の上の雲ミュージアム、夏目漱石や正岡子規ゆかりの観光スポット、四国霊場八十八カ所などがあげられます。

道後温泉本館は「千と千尋の神隠し」の舞台となった温泉宿「油屋」のモデルになったと言われています。会場の道後プリンスホテルからも近いので、道後の街を散策しながらぜひ訪れて頂きたいです。

松山市の銘菓としては、タルト、坊っちゃん団子、母恵夢、薄墨羊羹、労研饅頭、醤油餅、日切焼などが挙げられます。お土産物屋さんでぜひ探してみてください。

工芸品としては伊予かすり、竹細工、姫だるま、砥部焼などが有名です。

ほかにも、小説「坂の上の雲」主人公の秋山兄弟生誕地、愛媛県美術館、萬翠荘（愛媛県美術館別館）、松山市立子規記念博物館、伊丹十三記念館、子規堂、伊予かすり会館など見どころは数多く挙げられます。

〈歴史・文化〉



【松山城】



【道後温泉本館】



【萬翠荘】



【坂の上の雲ミュージアム】



【子規記念博物館】



【道後 からくり時計】



【伊予かすり】



【姫だるま】



【砥部焼】



【タルト】



【坊っちゃん団子】

<愛媛県事務局より>

<<あとがき>>

全青中副会長で「全青中だより」編集委員長の徳島県の中野寿之です。

私の人生の転機となる出来事を書かせて頂き自己紹介兼ねてあとがきとさせていただきます。

2008年2月15日に脳動脈瘤の手術を受けました。2007年4月に頭痛と吐き気があり、なかなか治らないので徳島赤十字病院で検査を受けたところ、左椎骨動脈に解離性動脈瘤ができていることが判り、即入院となりました。解離性動脈瘤とは血管の内壁が破れて膨れあがってしまった状態で、裂けるとクモ膜下出血となって約50%は死亡、命をとりとめても麻痺が残る危険性が高いという疾患です。

赤十字病院では、体に負担の少ないカテーテルによる塞栓術（太股の血管からカテーテルを頭の中まで通し、さらにその中に細いプラチナ線を患部まで通して血管内を詰めてしまう術）を勧められました。しかし、その手術の途中で、患部から大事な血管が二本でていることが判明し、塞栓によってそれらを殺してしまうのはリスクが大きいとのことで手術は途中で中止となりました。

患部が頭を中心の脳幹という神経密集地帯にあるため、開頭手術は難しくできないので、これ以上悪化しないように穏やかに生活しながら経過観察しましょうと言われて退院することになりました。

いったい何の為の入院、手術だったのかと憤慨し、インターネット等で色々と調べた結果、血管手術の第一人者である北海道旭川赤十字病院の「上山博康」医師にたどり着き、7月に旭川まで受診に行きました。上山医師のもとには日本全国から医者に見放された患者がたくさん訪れ、待ち時間5時間の表示にもかかわらず、1時間以上かけて判りやすく話をして下さいました。このまま放置するよりも開頭手術をして患部をクリッピングの方がよい、最低でもノドには多少の麻痺が出るかもしれないが、いつ破裂するかもしれない危険性を解消する方がもっと重要だとの判断で、即、手術の予約をして帰ってきました。その時点ですでに数百人も患者が手術待ち状態で、私の手術も結局7ヶ月後となった訳です。上山医師は、患者の為に旭川以外にも全国を飛び回って手術しており、私の場合も少しでも近くでということ、高知にて手術を受けることが決まりました。上山先生が高知空港に無事到着したとの連絡がきてから私は全身麻酔により意識無くなり8時間余りの手術を受けました。術後数日はしゃべることも唾を飲み込むこともできず大きな麻痺が残ったと落胆していましたが時間と共に少し回復してきましたが、口内麻痺、声帯麻痺が残りとにかく声を出したいとの思いで術後2年あまりリハビリをがんばって継続し現在のようにしゃべれるようになりましたが、まだしゃべり過ぎるとかなり疲れます。

とても手術は不可能という医師がほとんどの現状においては、手術して本当に良かったと思います。

上山医師は、「神の手ドクター」としてテレビ雑誌等でよく紹介されていますが、ご自分では「匠の手」とおっしゃいます。脳外科手術は製品作りと同じで1ミリ単位の指先の感覚でオペを進めていきます。ひとりでも多くの患者を救いたいという「使命感」を持ち続け、努力の結果が「匠の手」となったのでしょう。よいものを作り上げる、という「使命感」は、職業は違えども、自分にも共通する姿勢だと思います。今回の手術により、病気の不安から解放され、仕事にも何にでも頑張れる気力を取り戻すことができました。そして、2012年、私の命の恩人でもある先生と名前が上下逆さまである全青中の「上山泰寛」会長より副会長の依頼があったことはこれも何かの「縁」であると思い上山会長の為にまた全国青年中央会のみなさんのお役に立てる事ができるのならばと、お引き受けいたしました。全国の会員のみなさまにとって喜んで頂けるような「全青中だより」作成を心がけ努力しますのでこれからもどうぞよろしくお願ひします。